

土石流とともに流出する「流木」対策を積極的に推進 ＜砂防事業で「流木」対策をスピードアップ＞

平成16年、17年など近年の災害を見れば、土石流対策とともに、流出する「流木」に対する対策が国民の生命と財産を守る上で、重要な課題となっております。

- ①台風や集中豪雨等で土砂とともに木が流出し、流木を伴う土石流となって土砂災害の被害を助長。
- ②流木が橋に引っかかるなど川をせき止めて、土砂や洪水の氾濫を引き起こす。

このため、国土交通省砂防部では、平成18年度より流木対策の効果的な事業の推進をより一層図ることとし、その目標値を定めました。

＜今後5年間の目標値＞

○流木捕捉効果の高いえん堤の割合

30% → 60%

○えん堤1基当たりの平均流木捕捉量

約1,100m³ → 約2,000m³

問い合わせ先

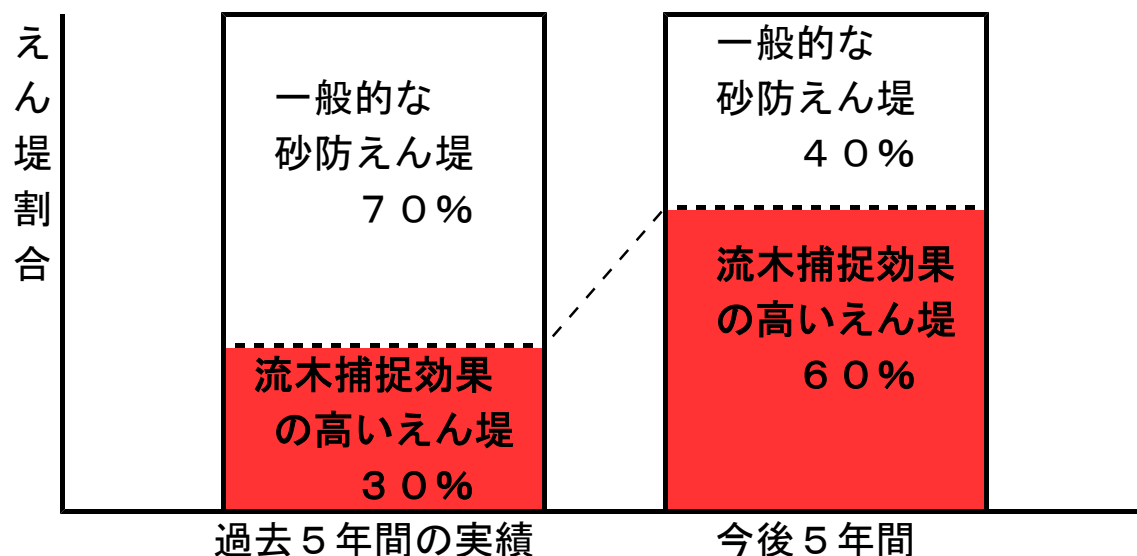
＜国土交通省河川局砂防部保全課＞

西山保全調整官（内線36-202） 直通5253-8469

近藤課長補佐（内線36-232） 同上

1. 流木対策の過去5年間(H13~H17)と今後5年間(H18~H22)の目標

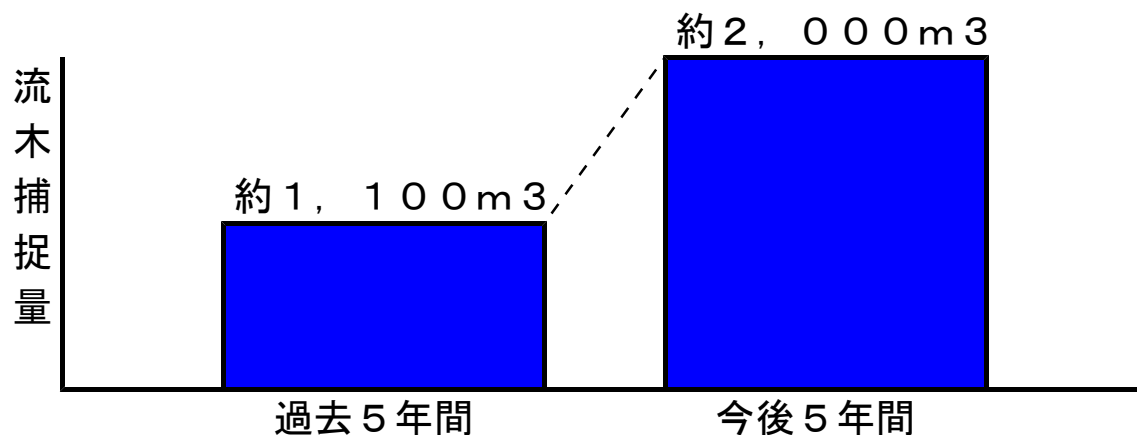
①流木捕捉効果の高いえん堤の割合



- ① 「一般的な砂防えん堤」は、土石流等を止めるとともに、土砂を堆砂させることで山脚や河道を安定させる機能を有するものです。
- ② 「流木捕捉効果の高いえん堤」は、一般的な砂防えん堤に流木捕捉工を設置したり、えん堤を透過構造にして細かな土砂は流して土石流や流木の捕捉機能を高めるものです。

※流木対策が必要のない溪流は除く。

②えん堤1基当たりの平均流木捕捉量



2. 近年の流木による災害事例



＜写真2：平成5年台風
橋を閉塞させた流木＞
(大分県中津市)

＜写真1：平成17年台風による、根返り・幹折れ・曲がり被害＞

大規模な風倒木被害の発生状況。(兵庫県佐用町)

降雨により土石流が発生した場合、流木も流れて災害を助長する。



＜写真3：平成16年8月台風15号における土砂災害＞

落合川、落合上川の土石流により、二級河川前田川との合流下部の橋梁が閉塞し、自主避難していた4名の内2名が濁流に流されて死亡。(香川県観音寺市)

3. 砂防施設の効果事例

①平成17年7月 梅雨前線（熊本県阿蘇郡小国町）において砂防施設が効果を発揮



②平成17年9月 台風14号（鹿児島県垂水市浦谷）において砂防施設が効果を発揮



平成17年9月5日～6日にかけて襲来した台風14号により、中俣川において多くの山腹崩壊及び土石流等が発生し、これらによる土砂や流木等が多く流下した。

既設砂防えん堤が施設されていたことにより、上流からの土砂及び流木を捕捉し、下流保全対象への土砂流出を低減することができた。

